

2024 年度

第 20 回お墓ディレクター検定試験

1 級試験問題

注意事項

- ①試験開始のアナウンスがあるまで問題用紙は開かないでください。
- ②試験時間は 45 分です。途中退席は認められておりません。体調不良などにより途中退席をする場合は各試験教室の試験監督官に申し出てください。
- ③机の上には、受検票、腕時計、鉛筆・シャープペンシル（HB～2B）とプラスチック製の消しゴム及び鉛筆削り以外のものは置いてはいけません。
- ④携帯電話・スマートウォッチを含む一切の無線通信機器の試験教室内での使用を禁止します。必ず電源を切り、カバン等にしまってください。
- ⑤解答は解答用紙に記入してください。また、マークシート方式ですので、記入の際は注意事項をよく読み、正しく記入してください。
- ⑥試験時間中の私語は固く禁止します。
- ⑦終了時刻がきたら、鉛筆を置いて解答作業を中止してください。また、係員が回収に来るまで離席は認めません。
- ⑧試験問題、合否、採点結果に関する質問は一切受け付けいたしません。
- ⑨試験監督官又は係員の指示に従わない者及び不正行為を行なった者に対しては、退室させることがあります。
- ⑩試験問題は各自お持ち帰りください。

◎次の各文の内容が正しい場合には正の箇所を、誤っている場合には誤の箇所を、それぞれマークしなさい。

1. お墓のつくり方、埋葬の仕方などは、それぞれの民族によって、その意味などが大きく違ってきます。では、「日本人のお墓」の意味を考える場合、考古学の調査や日本神話、古代文献、中国の先祖祭祀や靈魂観、インド・中国・朝鮮半島・日本の仏教からわかる意味などを総合的に理解しておかないと、日本人のお墓の全体像や意味を見出すことは難しい、というのは正しいでしょうか。
2. 弥生時代の埋葬で特徴付けられる北西九州の甕棺^{かめかん}は、器高1 mを超えるほどの埋葬専用の大型土器を用いたもので、成人を土器中にそのまま納めるために製作されたものである、というのは正しいでしょうか。
3. 江戸時代に始まった寺請制度^{てらうけ}によって各寺院の檀家は檀那寺（菩提寺）の墓地へ埋葬することが一般化しました。では、その際の埋葬方法は座棺による土葬が通常だった、というのは正しいでしょうか。
4. 六道輪廻^{ろくどうりんね}では、次に生まれる世界は、前世の行ないによって決定されます。「前世での善い行ないの結果としては楽を、悪い行ないの結果としては苦しみを、必ず来世で受ける」という「善業楽果、悪業苦果」の鉄則があり、このことを因果応報の輪廻説という、というのは正しいでしょうか。
5. 大乘仏教でいう「菩薩^{ぼさつ}（さとりを求める人々）」が目指した修行とは「自利利他^{じりりた}」の行でした。では、この「自利利他」とは、自分のさとりと同時に他の人々のさとりを願うもので、正確には「まずは他の人のさとりを優先し、自分はその後で」という考え方である、というのは正しいでしょうか。
6. ブッダの三身説^{さんじんせつ}にある「三身」とは、「法身仏^{ほっしんぶつ}」・「応身仏^{おうじん}」・「弥勒仏^{みろく}」の三つの性格をもつ、三つの身体に分けられたブッダのことである、というのは正しいでしょうか。
7. インド仏教では終わりのない六道輪廻において、前生^{ぜんしょう}から次の後生^{ごしょう}までを、人（正確には一切の生き物＝一切衆生）は「四有」という4種類の形態をとる、とされます。四有とは「生有^{しょう}」・「本有^{ほんう}」・「死有^{しう}」・「中有^{ちゆうう}」のことで、この中で「母胎にやどってから誕生の瞬間^{せつな}（刹那）まで」のことを「本有」という、というのは正しいでしょうか。
8. 一周忌は死後13ヵ月目の命日のことで、これは『儀礼』や『礼記』にいう「小祥^{しょうしょう}」にあたります。では、三回忌は死後25ヵ月目の命日で、小祥同様、『儀礼』や『礼記』にいう「卒哭^{そつこく}」にあたる、というのは正しいでしょうか。
9. 日本仏教では、四十九日^{まんちゆういん}の満中陰を過ぎても、三悪道の地獄・餓鬼・畜生へ転生した者を救うために、百ヵ日・一周忌・三回忌（三仏事）の追善供養が必要である、と説きます。では、この三仏事とは本来仏教の供養ではなく、道教から取り入れたものである、というのは正しいでしょうか。

10. 中国で初めて仏教の盂蘭盆会^{うらぼんえ}を行なったのは538年のことで、日本では約70年遅れた606年でした。では、日本において、飛鳥・奈良時代から平安時代に豪族や貴族階級に受け入れられたお盆行事は、ほとんどがお寺で行なわれていた、というのは正しいでしょうか。
11. 中国では7月15日は道教の「中元」^{ちゆうげん}に当たり、中元は「三元」^{さんげん}とあって、1月15日の上元^{じょうげん}、10月15日の下元^{かげん}とともに、それぞれ天官・地官・水官の誕生日に当たります。また、地官は仏教の影響を受けて「あの世に苦しむ死霊をつかさどる神」とされました。では、中国では盂蘭盆行事が始まった当時、7月15日の中元に地官に供え物をささげると、過去七世^{しちせ}の父母^{ふも}の霊が救われるという信仰ができていた、というのは正しいでしょうか。
12. 平安時代後期に活躍した真言宗の僧侶に、覚鑊^{かくぼん}という人物がいます。では、日本中が「浄土思想」一色に塗り替えられていく平安時代後期に、覚鑊は真言密教と浄土思想を融合させて「真言密教の念仏（＝真言念仏）」を打ち立てた、というのは正しいでしょうか。
13. 五輪塔でいう「六大」^{ろくだい}とは、地大・水大・火大・風大・空大の「五大」＝「五輪」に「識大」^{しきだい}を加えたもので、空海独自の教義です。では、この「識大」とは、「五大の性質を見る主体（の自分）」のことをいう、というのは正しいでしょうか。
14. 東大寺は聖武天皇^{しょうむ}の発願^{ほつがん}によって総国分寺として建立されたものですが、この大事業を完成させたのは行基^{ぎょうき}とその聖集団^{ひじり}でした。では、鎌倉時代に平重衡^{たいらのしげひら}によって焼かれた東大寺の再興事業に勧進聖の大集団を率いて活躍したのは空也上人^{くうや}である、というのは正しいでしょうか。
15. 空海は中国から「密教」を日本に伝えました。では、この「密教」の最終目的は「即身成仏」といって、現世において成仏することである、というのは正しいでしょうか。
16. 韓国は2000年に墓地法が変わり、それまでの土葬主体から、火葬へ移行しています。では、台湾では風水を考えた土葬、土まんじゅう型の墓地が伝統的で、いまま土葬が主体となっている、というのは正しいでしょうか。
17. 遺骨の所有権は、法定相続分に従って遺族全員が有すると考えられている、というのは正しいでしょうか。
18. 個人墓地であっても、私有地にお墓を建てる場合は、私有地に墓地を開設する許可を得なければ違法になる、というのは正しいでしょうか。
19. 遺骨の一部を他の墓地や納骨堂に移すという「分骨」は、現在の墓地管理者から分骨証明書の交付を受け、それを分骨先の墓地管理者に提出して行ないます。では、この「分骨」をする場合も改葬と同様、市区町村長の許可が必要となる、というのは正しいでしょうか。
20. 遺骨や骨壺を不法に捨てた場合、廃棄物処理法違反となり、3年以下の懲役もしくは500万円以下の罰金に処せられる（または併科）、というのは正しいでしょうか。

21. お墓の販売に関する契約として、墓地使用契約と墓地工事契約があります。では、この二つの契約は法的性質も締結する当事者も異なる全く別の契約である、というのは正しいでしょうか。
22. 「宇寿石」は愛知県岡崎市で採石されている色の白い花崗岩で、主に鳥居や間知石、外柵などに使われている、というのは正しいでしょうか。
23. 亡くなった月と日が同じ日のことを月忌^{がつき}といい、月は違っても亡くなった日と同じ日のことを祥月命日^{しょうづきめいにち}という、というのは正しいでしょうか。
24. 永代供養墓は墳墓地として許可された区域内であれば、特段に新たな手続きを行なうことなく設置できると考えられます。では、永代供養墓の設置に伴い、墓地内の通路等の変更を伴う場合も、特段に新たな手続きを行なうことなく設置できると考えられる、というのは正しいでしょうか。
25. 神道の墓石に見られる棹石の頭の尖った形は「兜巾^{とが}」といい、この形は修験者がかぶる頭巾^{ず(と)きん}の形からきている、というのは正しいでしょうか。
26. 研磨盤は番数が小さいほどダイヤモンドの粒は粗く、数字が大きいほど細くなります。では、研磨の最終工程における艶出しではバフを使うことが一般的である、というのは正しいでしょうか。
27. 基礎工事における割栗地業^{わりぐりじぎょう}では、コンクリートの打ち方はベタコンクリと布コンクリ^{ぬの}があります。では、割栗地業では割栗石の大きさ、コンクリートの厚みによって根切りの深さが違ってくる、というのは正しいでしょうか。
28. コンクリートにとって大敵は土の成分です。コンクリートの硬化を妨^{さまた}げるからであり、土の混じった山砂や塩分の入った海砂は使用しないように注意した方が良い、というのは正しいでしょうか。
29. 石材のクリーニング方法である散水洗浄工法は、時に諸ケミカル処理の前処理としても実施されます。では、この散水洗浄工法は日常で継続することでメンテナンスとしては効果があり、また石材にダメージを与え難いという利点がある、というのは正しいでしょうか。
30. 石材に付着した油脂^{ゆし}（植物油・動物油）の汚れ等を脱脂^{だっし}できる効果が期待されるのは酸系のケミカル剤である、というのは正しいでしょうか。

多肢選択 20 題

◎次の各文の（ ）に入る語を①～④の中から選び、その番号の箇所をマークしなさい。

31. 日本神話における「死後の世界」の具体的な描写として、（ ）のイザナギ（男神）・イザナミ（女神）の話があります。この話は長い間にわたって、日本人の「死後観」に大きな影響を与えてきました。

- ①高天原^{たかまがはら} ②常世国・妣が国^{とこよのくに はは} ③黄泉国^{よみのくに} ④神奈備山^{かなびのやま}

32. 仏教で六度と言えは「六波羅蜜」のことですが、六波羅蜜の中で（ ）とは、たゆまず仏道を実践することです。

- ①布施 ②持戒 ③精進 ④禅定

33. お彼岸の中日と、沈む太陽に向かって「西方浄土」を思い浮かべる「日想観^{にっそうかん}」とを結びつけたのは、中国浄土教の（ ）でした。浄土宗の開祖である法然上人は、「偏へに（ ）一師^{いっし}に依る^よ」といい、また浄土真宗の開祖である親鸞聖人は、「（ ）ひとり^{ひと}仏の正意を明らかにせり」といっているほど、（ ）は2人の祖師に影響を与えました。

- ①曇鸞^{どんらん} ②善導^{ぜんどう} ③達磨^{だるま} ④玄奘^{げんじょう}

34. 日本におけるお墓の歴史を考える上で忘れてはならないのは、鎌倉仏教の祖師たちのような宗派を開かず、あくまでも民衆の中で活動することに生涯をかけ、高い志をもった（ ）と呼ばれた高僧たちの存在です。（ ）の活躍があったからこそ、現代まで「先祖供養」という形でお墓や葬式が私たちの生活に定着したと考えられます。

- ①聖 ②上人 ③結衆 ④羅漢

35. 法然の浄土宗、親鸞聖人の浄土真宗の根本経典は（『^{かん むりょうじゆきょう} 』）・『観無量寿経^{むりょうじゆきょう}』・『無量寿経』で、これら3つを合わせて「浄土三部経」といいます。

- ①法華経^{ほけきょう} ②阿弥陀経^{あみだ} ③般若経^{ぼんにや} ④大乘密厳経^{だいじょうみつごん}

36. 法然は「阿弥陀様の教えを信じて、誰でもただ、南無阿弥陀仏、と称えると、阿弥陀様の誓願^{せいがん}によって死後は成仏し、極楽浄土へ往生させていただける」という、誰にでもできる念仏を主張しました。これを（ ）といいます。

- ①聖の念仏 ②真言の念仏 ③観想念仏^{かんそう} ④称名念仏^{しょうみょう}

37. 墓地または納骨堂の管理者は、埋葬許可証、火葬許可証、または改葬許可証を受理した日から（ ）年間、これらを保存しなければなりません。

- ① 1 ② 3 ③ 5 ④ 10

38. 1類感染症、2類感染症、3類感染症または新型インフルエンザ等感染症の病原体に汚染され、または汚染された疑いがある死体は（ ）時間以内に火葬し、または埋葬することができるとされています。

- ① 12 ② 24 ③ 36 ④ 48

39. 花崗岩は地球上で最も分布面積の広い酸性の深成岩^{しんせいがん}で、石英、長石、斜長石を主成分とし、少量の有色鉱物を含みます。これらの鉱物の中で日本産の花崗岩は（ ）の分量が多いといわれています。

- ① 石英 ② 長石 ③ 斜長石 ④ 有色鉱物

40. 「伊達冠石」は宮城県伊具郡丸森町と白石市にまたがる大張地区で採石されている（ ）です。

- ① 花崗岩 ② 斑れい岩^{はん} ③ 閃緑岩^{せんりょく} ④ 安山岩

41. （ ）彫りは薬草などを粉にする鉄製の（ ）からきていて、文字彫刻のうち、字底がV字型になる彫り方のことをいいます。

- ① 円底 ② 薬研^{やげん} ③ 樋^{とい} ④ 籠底^{こも}

42. 外柵の施工時において、たて合口には養生^{ようじょう}をして（ ）と呼ばれる軟らかくしたモルタルを流します。

- ① 据えまえ ② たて目地 ③ つぎとろ ④ プライマー

43. 墓石工事で各種の機械を使用する場合、労働安全衛生法に基づく試験や講習を受けなければならないものもあります。また1件の請負金額が（ ）万円以上（消費税込み）の場合、建設業許可（石工事）が必要です。

- ① 500 ② 1000 ③ 1500 ④ 2000

◎次の文章の空欄に入る語を下の①～④の中から選び、その番号の箇所をマークしなさい。

六道輪廻する根本の原因はすべて（ 44 ）の働きなので、仏教の最終目的は「（ 44 ）を絶ち切り、輪廻から解き放たれて六道の世界から脱出すること」、すなわち（ 45 ）することとなります。

44. ①煩惱^{ぼんのう} ②さとり ③往生 ④解脱^{げだつ}
45. ①煩惱 ②さとり ③往生 ④解脱

死体の埋葬または火葬を行なう者がいないとき、または判明しないときは、死亡地の市町村長が、これを行なわなければなりません。なお、埋葬等の費用は、死亡者の遺留^{いりゅう}した金銭等を充て、それで不足がある場合は、（ 46 ）、（ 47 ）の順で負担します。さらに不足がある場合、遺留物品を売却した金銭で充て、それでも不足がある場合には、埋葬地の都道府県の負担となります。

46. ①市町村 ②死亡者の扶養義務者^{ふよう} ③厚生労働省 ④相続人
47. ①市町村 ②死亡者の扶養義務者 ③厚生労働省 ④相続人

墓石の基礎工事における割栗地業^{わりぐりじぎょう}の基本的な手順として、（ 48 ）をしたあとに約六寸の割栗石を隙間なく並べ、その上を（ 49 ）で突き固めます。軟弱^{なんじやく}な地盤で割栗石が下がり過ぎた時などは、コンクリートの厚みを調整したり、地盤を強くするために（ 50 ）を入れて再度（ 49 ）で二重に突きます。

48. ①目つぶし ②根切り^{ねぎ} ③埋設 ④防水工事
49. ①電動ハンマー ②スロットドリル ③杭打ち機^{くわうち} ④バイブロランマー
50. ①セメント ②碎石^{さいせき} ③砂 ④土